

一人一人の感じ方・考え方のちがいに気づく説明書作り

～「動いて、考えて、また動く」(光村図書4年上)の学習を通して～

福山市立神辺小学校 釜山祐幸

(1) 教材について

本教材には、自分の身体をよく知ることによって、だれでも身体をより生かすことができるということ、そして「思考錯誤して自分にしかできない方法を見つける」という筆者のメッセージが込められている。筆者はその考えの根拠として、自分の陸上の経験を挙げている。児童にとって身近な「身体」について扱っており、この文章を読んだ児童は、自分の身体について「もっと知りたい。」「もっと体を使いたい。」と意欲をもつことができる教材である。

これまで児童は「初め・中・終わり」の文章構成を繰り返し学習してきた。ここでは「初め」と「終わり」に「筆者の主張」が繰り返される双括型の構成であり、「中」はそれを裏付ける理由や根拠となっている。また、言葉で記述された内容が、図により補足的に説明されている。児童が文章を読んで筆者の考えを捉え、自分の考えをまとめる活動を通して、既存の知識や現実と結び付け、自分の考えを深めさせる機会にさせたい。

(2) 学習目標について

① 価値目標

国語科「読むこと Ⅰ」では、「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くこと。」が指導事項になっている。

筆者の主張をとらえて、自分の身体を生かすために思考錯誤していこうとする態度を身につけるとともに、互いに考えたことを交流し、一人一人の感じ方・考え方に違いがあることに気づくことができることを価値目標として設定する。

② 技能目標

(ア) 関連する学習指導要領の指導事項の中心は、「読むこと Ⅰ」の「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え文章を読むこと。」「読むこと Ⅱ」の「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」である。

(イ) これらの指導事項を受け、本単元では、「筆者の考えを読み取るために、事実と意見の関係をとりえて、段落相互の関係を考えること。」と「文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」を中心に指導する。

(ウ) またこれらに加え、「説明文と図を関連づけて図を使っている筆者の工夫をとらえること。」も技能目標とする。

③ 態度目標

自分の生活の中でもっと上達したいと思うことを考え、教材が身体の使い方について書いてある文章であることを知り、興味をもって読もうとする態度を身につける。

(3) 言語活動と活動目標

「〇〇説明書を作ろう」という活動目標を設定し、筆者の主張と自分の経験とを関連づけた説明書作りを言語活動として設定する。

教材文の図と、それを説明する文章を要約し、「筆者の走り方説明書」に表す。その後筆者の主

張を説明書の見出しとして書き、完成する。最後に自分の経験をもとに「〇〇説明書」を作成する。

このような活動を通して、事実と意見の関係をとらえて段落相互の関係を考える力、文章の引用や要約をする力が身に付くと考える。また自らの経験を相手に伝えたいという意欲をもち、活動に取り組むことができる。

(4) 方法と評価

活動目標＝単元名 (〇〇説明書を作ろう)

	言語活動	学習目標	評価方法
導入	<p>○「大きな力を出す」を読み、これまでの説明文の学習を振り返って文章の構成や筆者の考えをとらえる。</p> <p>○自分の生活の中でもっと上達したいと思うことを考える。</p>	<p>○筆者の考えに興味をもち、文章の構成を考えながら読もうとする。</p> <p>(態度目標形成)</p> <p>○身体の使い方について書いてある教材文を、興味をもって読もうとする。</p>	(ノート・発表)
展開	<p>○筆者の主張をとらえる。 ・「動いて、考えて、また動く」を、段落相互の関係をとらえながら読む。</p> <p>○「筆者の走り方説明書」を作る。 ・筆者の主張と、主張を裏付ける筆者の体験(事実)やそれに対する解説をまとめる。</p> <p>○自分の考えをまとめる。 ・筆者の考えに対する立場を明確にし、自分の考えをまとめる。</p>	<p>(技能目標形成)</p> <p>○文章構成を考え、筆者の主張をとらえる。 ・だれでも身体をより生かすことができる。 ・思考錯誤して自分にしかできない方法を見つける。</p> <p>○文章の要点をとらえ、教材文の図と関連付けて、「筆者の走り方説明書」にまとめさせる。</p> <p>○筆者の主張を裏付ける体験や逆の体験を想起させることなどを通して、主張に対する立場を明確にさせる。</p>	<p>・文章の中の筆者の主張をとらえ、説明書の見出しを書くことができる。 (説明書)</p> <p>・図と関連付けて、筆者の説明をまとめることができる。 (説明書)</p> <p>(ノート・発表)</p>
終結	<p>○「〇〇説明書」を作る。</p>	<p>○「〇〇説明書」は、他者への伝達を目的としたものなので、次のことに気を付けさせる。 ・書く内容の分類・整理 ・タイトルや見出しの工夫 ・分かりやすく伝えるため、図など、視覚に訴えるものを取り入れる。</p>	<p>・経験をもとに、「〇〇説明書」作成し、興味をもって伝えることができる。 (説明書・発表)</p>

<p>○「〇〇説明書」を読み合い、一人一人の書き方の工夫や考え方の違いに気づく。</p>	<p>○友達の主張の明確さや裏付ける事実があるかなど、読み合う視点を示す。 (価値目標形成)</p> <p>○自らの経験を生かした「〇〇説明書」を作成し、相手に伝えたいという思いをもつとともに、互いの意見を交流することで、一人一人の感じ方・考え方に違いがあることに気付く。</p>	<p>(ノート・発表)</p>
--	--	-----------------